

時間割コード	Q4300905	開講年度	2026				
授業題目	特別活動の理論と実践【第4欄】				担当教員	小山 茂喜	
英文授業名	The theory of the special activities and practice					藤井 善章	
単位数	1	講義期間	前期(後半)	曜日・時限	火曜・5時限	対象学生	F
講義室	絨織 1 1 番講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	学習指導要領から見た特別活動の意義と内容を読み解き、理解する。 具体的な実践例を基に、特別活動の4つの内容（学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、学校行事）の特徴と意義を考察する。 特別活動場面で実施可能なワークショップを体験し、生徒理解の視点から効果的な学級・学年経営のあり方を探究する。						
(5)授業のキーワード	特別活動						
(6)授業計画	第1回：学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解する。 第2回：教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解する。 第3回：学級活動・ホームルーム活動の特質について理解する。 第4回：生徒会活動、学校行事の特質について理解する。 第5回：教育課程全体で取り組む特別活動の指導のあり方を理解する。 第6回：合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団行動の意義や指導を考察する。 第7回：学校と家庭・地域社会や関係機関との連携について考察する。 第8回：教科や道徳、総合的な学習との関連や潜在的なカリキュラムからの見直しについて考察し、取り組んだことの評価と改善活動の重要性を理解する。授業アンケート。						
(7)成績評価の方法	毎回課すレポート（65％）期末の課題レポート（30％）授業への取り組み（5％）を総合的に判断する。						
(8)成績評価の基準	規準…概ね目標に達成されていると判断されるレベル ①…学習指導要領の内容を理解している。 ②…カリキュラムにおける特別活動の位置づけを理解している。 ③…学校行事の指導計画を立案することができる。 基準 『かなり上にある』…規準値の3点を満たし、深い学びを導き出すカリキュラムを編成することができる。 『やや上にある』…規準値の3点を満たし、学校行事・生徒会活動・学級指導の指導について有機的に連動させながら計画を立案することができる。						
(9)事前事後学習の内容	インターネット上で公開されている学級活動の実践記録を調べたり、学校行事の指導計画などを調べ、指導計画を立てる際に活用できるようにしておく。 総合的な学習と特別活動について、文部科学省ののホームページで実践報告を調べ、レポートに織り込むことができるようにしておく。 ※この授業は、15時間以上の時間外学習が必要となります。						
(10)履修上の注意	教員免許状取得希望者は、必修である。 受講後再度ワークショップ等試みることを望ましい。						
(11)質問,相談への対応	講義後等随時対応します。 メールでも可。 shigeki@shinshu-u.ac.jp						
(12)授業への出席	すべての回に出席することが前提です。						
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	eAlpsに掲載した資料を基に自学自習し、レポートを提出。						
【教科書】	文部科学省「中学校学習指導要領」 文部科学省「中学校学習指導要領解説 総則編」 文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別活動編」						
【参考書】	必要に授業において適宜指示をします。						